

第 2 回米子市総合計画審議会会議録（概要）

○開催日時 令和元年 8 月 9 日（金）午後 1 時 3 0 分～

○開催場所 米子市立図書館 2 階 多目的研修

○議題 各分野における課題と施策の方向性

■古賀副会長

資料 2 に、分野ごとに重点的に取り組む施策がピックアップされているが、今後いつ頃までに、どのようなかたちで総合計画としてまとめられるのか。全体像及びスケジュールを教えてください。

□長谷川課長

資料 2 に挙げられている、重点的に取り組む施策が総合計画の柱になる。

総合計画の柱については、本日の会議だけではなく、8 月末の開催を予定している次回の会議でも継続して検討する。本日は欠席の委員もいるため、本日の会議で挙げられたご意見も踏まえ、次回の会議で議論を膨らませたい。具体的な事業や人口ビジョンも次回の会議で示し、その内容も踏まえて議論したい。

スケジュールとしては、10 月に総合計画の大枠を決め、その後、パブリックコメントの実施や市長による市民説明会を経て、総合計画をまとめたい。

■古賀副会長

分野ごとの施策の内容が多岐にわたっているため、全体を網羅するのは難しいが、前回の会議で説明があった関係人口というテーマは、それぞれの施策の活動に関連性がある。例えば、空き家の活用が産業や観光の各分野にも関連するなど、関係人口に繋がるようなことができるのではないか。

徳島県では、空き家を活用してサテライトオフィスを整備し、システムエンジニアが都会と行き来して交流するなどの例もあり、それぞれの施策が単体ではなく、結びついて相乗効果を生むのではないかと。

□長谷川課長

資料 2 には分野ごとに分けて施策を記載しているが、実際はそれぞれの施策が深く絡み合っている。

関係人口に関する取組は、米子市の全体の魅力を高めていくもの。

徳島県の例は、神山町のことだと思うが、実際にサテライトオフィスを整備している。現時点で本市では具体的なものを準備していないが、そのような視点を大事にしながら、考えていく必要がある。

□倉本室長

様々な施策を連携させることは地方創生の大きなテーマでもあり、今回策定しようとしている総合計画は、総合戦略と一体となって策定していくことになるため、委員の皆様のご意見をいただきながら良い計画を策定したい。

■加藤会長

米子市全体の魅力向上につなげることが、総合計画や総合戦略の目標ということ。

■岡村委員

重点施策に取り組む中で、米子市として何を成し遂げたいのか。目標を設定しているのか。全ての施策を束ね、どのような米子市にしたいのか。現時点の目標設定はあるか。

□長谷川課長

究極には、市民の幸せをとことん追求していくこと。市民が住みやすく、楽しく暮らせる、あるいは福祉が充実していることが、市民が幸せに生活していけることにつながる。それをどのように表現して、分かりやすい方向性を示すことができるかについて、委員の皆様のご視点やご意見を取りまとめて形にしたい。

□倉本室長

重点的に取り組む施策をカテゴライズして、もう少し多く分類するなどして、それぞれ施策の目標設定は必要だと考えている。

■加藤会長

大目標から演繹的に考える手法と、施策から積み上げていく手法がある。市役所目線になっている箇所があれば、委員の皆様からの意見をいただきたい。

■吉岡委員

最初の会議で市長から言われたことは、どのようなまちにするか、市民がどう満足するまちにするか、ということであったと思う。具体的に示してほしい。それが決まっていなければ、各論を議論するのに支障がある。関係人口が増えると、私達の生活はどう良くなるのか。

□長谷川課長

各論と方向性を行ったり来たりしながら議論したい。また、施策ごとの課題をベースに議論したい。関係人口に関する取組は、移住定住施策も併せて行うものだが、まずは米子に関わる人の裾野を広げること。観光で米子に訪れる人など様々な立場の人がいるが、まちづくりに関わる人が増えることは、米子の活力につながると考えている。

■ 吉岡委員

私の理想は、若者が大学進学を機に市外に出た後も、まちづくりに知恵を絞ってもらい、関わってもらうことが米子市にとっても有用だと思う。

日野町では、ふるさと住民票制度により、町外にいる人にも関わってもらう取組をしている。

地方創生の項目に無いものについて、例えば市外からの住民参加についても研究していただきたい。

■ 佐貴委員

資料 2 の都市基盤分野に記載されている「持続可能な地域公共交通体系の確立」と「総合的な交通基盤の整備」の違いを教えてください。

□ 遠藤担当課長補佐

前者は公共交通に係るもの。後者は新幹線・空港・高速道路等のインフラ整備を総括したもの。

■ 加藤会長

交通インフラなどのハード部分の整備を柱として推進していくとともに、バスやタクシーなどのソフト部分も引き続き進めて行く。両者を都市基盤の整備として取り組んでいくということ。

■ 佐貴委員

第 3 次総合計画の訂正版は出すのか、あるいはこのまま進めるのか。というのは、配布された資料の内容と第 3 次総合計画との間でリンクしていないところがあると思っており、それぞれで棲み分けができればわかりやすいと思うが、どうか。

□ 倉本室長

今回は、総合計画の中に総合戦略を取り込んで策定することとしている。最初から総合計画と総合戦略を一緒に作り上げていくため、総合計画の中の施策のうち、該当するものは地方創生の取組であることがわかるような表現を考えるなど、整合性を取れるようにする。

■ 渡部委員

にぎわい創出の分野について、米子駅周辺は居酒屋等があつてにぎやかだが、中心市街地の様子と相反するような気がしている。米子駅周辺では観光客や地元の人々などが娯楽等を楽しんでいるものと解釈しているが、一般の方や子どもが多く出かけていくような場所には見えない。どう考えているか。

□ 杉村部長

中心市街地の活性化は、商業だけではなく、市民に住んでいただくという視点がある。米子駅周辺に家族で食事をする場所が少ないことはご指摘のとおり。

中心市街地活性化基本計画の中で、米子駅周辺エリアと角盤町エリアを 2 大エリアと位置付けて、米子市全体の活性化を図ろうとしている。

米子駅周辺エリアは、ホテルなどの宿泊施設や飲食施設が充実しており、コンベンションセンターや文化ホールなどの住民が集まる場所もある。米子駅南北自由通路等整備事業を進めているところでもあり、全庁的に、再度、米子駅周辺で家族に楽しんでいただく機能についても検討したい。

□長谷川課長

米子駅周辺の整備を進めており、来年度には駅舎などの工事も本格化する。基盤整備が終わった後のまちづくりをどうするかについての検討を、プロジェクトチームを作って並行して進めている。

■伊坂委員

前回の総合計画策定時に発言したが、一つ一つの施策は複数の分野にまたがっているものが多い。特に観光に関する施策は、多くの分野にまたがっている。地元の野菜や肉などを観光客に提供する、トライアスロンなどのスポーツ、米子のまちなかと皆生温泉をつなぐ二次交通がない、など。

複数の分野にまたがる施策にも取り組める米子市にしてほしい。施策を担当する部署（メインと補助）を明記してほしい。全ての部署が全ての分野を担当することを、市役所内で共有してほしい。

□杉村部長

観光分野に農林水産業も関わっていくべき。また、福祉分野にも関わっていくものが出てくる。

米子市の考えとして、部局横断的に検討しなければ解決しないものがあると考えており、部局横断的な課題は、総合政策部が調整して進めることになる。

米子駅周辺の活性化も、経済部や都市整備部などの関係課が集まってプロジェクトチームを立ち上げ、施策を考え、協力して取り組んでいる。

総合計画の書き方としては、ある程度メインの部署の分野に記載するなど、分野分けをすることになるが、関係部署が協力して施策を遂行する。

□長谷川課長

米子駅周辺の整備のほか、中海周辺についてもプロジェクトチームがある。

部局横断的な取組は総合政策部が所管し、関係部署と調整して動くことになる。

■高野委員

参考資料に記載されているデータは、全て米子市のことか。3 ページの「製造品出荷額等の推移（製造業）」の金額の単位は 100 万円で正しいか。

□杉村部長

正しい。

■吉川委員

平成 28 年までしか数字がないなど、データが古いのではないか。3 ページの事業所数は、平成 28 年から平成 29 年までで 28 社も減っているが、正しいのか。

□遠藤担当課長補佐

参考資料に記載している統計データは、RESAS をもとに、米子市独自の集計とミックスさせたもの。データの中には国の統計調査をもとにしているものがあり、調査を毎年するものでないものについては、データが古いものもある。

■吉川委員

事業所数の減少の原因を分析しないで地方創生の議論をするのはいかがか。

□杉村部長

事業所数について、平成 28 年のみ極端に増加しているのは不思議。傾向としては横ばい。次回の会議までに検証する。全体としては、事業所数は少しずつ減少している一方、従業者数は少しずつ増加している。

■徳田オブザーバー

5 ページの年間商品販売額が平成 28 年に急激に増加しているが、何かあったのか。13 ページの空家率が、平成 20 年から平成 25 年にかけて下がっていることも疑問。

□杉村部長

年間商品販売額について、国全体の消費が緩やかな回復傾向にあるのは確かだと思うが、米子市に限っては、消費が拡大していると思えるを得ない。その原因として、大型店舗の出店などの核となるような理由付けは見出せないが、消費が緩やかに拡大していると言えるのではないか。

■遠藤担当課長補佐

空家率について、出典は住宅土地統計調査という抽出調査によるもので、調査対象にアパートが含まれると総住戸数が増えるという傾向がある。2008 年頃からは、リーマンショックにより新築が伸び悩んだがその後総住戸数が増え、また米子市が空き家対策に取り組んだ結果、空家数が減ったことなどが影響していると考えられる。

□徳田オブザーバー

先ほど部局横断の施策に取り組むプロジェクトチームの話があったが、次回の会議までに、どのようなプロジェクトチームが進行しているのか、それぞれの進捗等も示してほしい。その内容は総合計画に関連すると

考えられる。

施策の柱の案として、「ふるさと教育の推進による郷土愛の醸成⇒Uターン促進」も重点的に取り組む施策に含めてほしい。また、住民参画も強調してほしい。

総合計画のまとめ方の方向性の一つとして、弓浜半島全体にスポットを当ててはどうか。観光・耕作放棄地・高規格道路等の施策が関連するため。

■高野委員

「持続可能な公共交通体系の確立」について、住民が利用しやすい・住民に利用される公共交通の確立が必要。持続可能と表現すると先細り感があり、住民の利用につながらず、悪循環になるおそれがある。記載の仕方も含め、内容の検討が必要ではないか。

□長谷川課長

記載の仕方は考えないといけない。内容については、公共交通ビジョンの内容を反映し、前向きな取組であることを表すようにしたい。

■赤澤委員

先日 LINE@を利用した UIJ ターン促進の取組が始まったと思うが、状況はどうか。

□長谷川課長

米子市は各種 SNS にアカウントを持っており、アカウントに応じた情報発信をしている。

■齊木委員

子育て分野について、様々な施策の中で、保育サービスの充実、放課後児童クラブなど、サービスを受ける人の充実は考えられているが、保育士や指導員などの確保や雇用の安定などにも目を向けてほしい。保育ニーズの多様化に応えようとすると、仕事の負担がかかる。担い手の離職などの問題が隠れてしまいがちなため、その検討もお願いしたい。

□景山部長

サービスを拡充すると、担い手不足の問題が出てくる。そうしたことを総合計画に盛り込む工夫を考えてみたい。総合計画に明記されることによって、意識して取り組んでいくことができると考えている。

■齊木委員

指導員の資格取得や研修の機会の回数が少ない、多様化されている保育士の業務に見合った収入になっていない、仕事に求められる内容と環境が合わないために苦勞している、という声を聞いている。

■澤田委員

商工業の立場から見ると、観光、スポーツ、歴史など、米子市の環境を活かしたものがある。

商工業者、特に中小事業者が人口減少社会で生き残っていくためには、環境を活かし、計画をもって事業を行っていくことを重視している。行政頼みではなく、事業者主体となってやっていくべきで、それがまちの活性化につながっていく。そのための環境の整備や基盤づくりが今後も大事になる。

■ 森本委員

全国的に見ると、中小事業の事業所数は 1 割程度減っている。米子市は全国の減少率よりも小さく、既存の事業所が生き延びている。それは有効な施策を取っているからこそ。新規創業ばかりではなく、既存の企業の維持が重要と考え、動いており、そのような観点も加えてもらえると良い。

■ 濱本オブザーバー

先ほど、総合計画策定時のセクショナリズムの話が出たが、県庁でも、プロジェクトチームのような、テーマを決めて話し合う組織を作っている。目指すべきものがあって、各施策が紐づく、その姿が見えてくるのではないか。

県も次期総合戦略を作ろうとしており、各地域や県全体の地方創生チーム会議でご意見をいただいて、戦略を作ることになっている。

■ 中村委員

市民として、米子に 30 年住んでいる。年老いた親を米子に呼び寄せているが、年を取って、車に乗れなくなったらどうしよう、と考える。米子は、自分たちの足で出かけられず、まちを歩いている人が少なく、車が多い。

LCC がなくなり、友だちもなかなか米子に来てくれない。外から来た人の中には、もともと米子に住んでいる人が便利だと思うことを、不自由だと思う人もいる。

だんだんバスが周回しているところは便利なエリア。それ以外のエリアは、車が無ければ本当に大変で、車の免許を返上すると、何に乗って、どう行動すればよいのか。スーパーの配達もあるものの、不便なエリアでも、小さく回るようなものがあるとよい。

■ 堀尾委員

「総合的な」とか「都市基盤」という表現はわかりにくい。重点課題に紐づく具体的な事例を挙げるほうが、それらのベースが見えてくるのではないか。具体的な取組・担当部局・立ち上げたプロジェクトチームなど、肉が見えると骨格も見えやすい。それによって、関係各所の動きやすさにもつながるのではないか。

□ 長谷川課長

今後、議論しやすく、わかりやすくするために、予定されている取組など、次回の会議に向けて準備する。

次回は 8 月 26 日を予定しており、時間はあまりないが、こういうことが考えられる、というものを示したい。

中小企業の振興について、事業活動は事業者の責任で行うものだが、環境の整備は行政の責任でやっ

ていく。

商工セクション以外では、広域的な交通基盤の整備は大きい。米子—境港間の高規格道路、米子道の4車線化、新幹線の整備などについても総合計画の中で項目として挙げている。

中村委員のご指摘は、米子が考えるべき課題が凝縮されていた。市民の生活スタイルや市の構造に関わるものであるため、すぐに解決することは難しいが、方向性を示して取り組みたい。

都市計画マスタープランでは、コンパクト&ネットワーク、JR 境線を活用したまちづくりを示しているが、車に頼らないなどの取組を進めていきたい。

■ 吉岡委員

いきいきプランの中に、市民が主体となったまちづくりとあるが、総合計画が総花的に見える原因として、市民の思いやどのようなまちにしたいということが見えにくいことがある。行政には漢字の熟語の多用がありがち。例えば、「いつまでも外に出かけたい」という思いをそのまま施策にするなど、平易な市民の話し言葉をもとに作るべき。

また、総合計画と総合戦略を一体的に策定するということが、まず米子市の総合計画があり、地方創生に合わないところがあれば、国に求めるべき。まちづくりがまずあり、次に地方創生。地方創生に無理にリンクさせる必要はない。

□ 倉本室長

表現の仕方について、検討したい。

地方創生として国の目指すものはあるが、地域の特性に応じた地方創生を行うよう求めている。国に無理やり合わせるものではない。

■ 古賀副会長

地域の活性化と市に住んでいる方々の生活・幸せが相反する方向に行ってはならない。他の地域に比べて、決して悪いわけではない部分も米子にはあるため、客観的な評価を併せて行くと、米子の立ち位置も見て来るのではないか。米子のよいところを再発見して、拾い上げる取組もしていきたい。